

分科会 「復興をめぐることばの特性、変容、課題 ～復興ワードマップ研究会の報告～」

（2日目：10月27日（土） 9時30分～12時00分 会場：分科会第2会場）

企画：近藤誠司
（関西大学社会安全学部）
Seiji KONDO

1. 趣 旨

災害が頻発し、復興に関する議論や取組が活発になることによって、災害復興をめぐることばの生成変転に拍車がかかり、ときに、思わぬ誤解や意図せざる混乱を招く事態が生じている。「災害復興学」を深化させていくためには、ここであらためて、ことばの射程や系譜を精査・探究しておく必要があるだろう。ひるがえって、ことばにフォーカスをしぼることで、当学会において10年来議論が続いてきた「復興とは何か」を考究する運動自体を、逆照射していくこともできるのではないか。そうしたねらいから、2017年度半ば、数名の有志によって「復興ワードマップ研究会」が旗揚げされた。

ところで、以下のことばの含意を、普段われわれはどのように考え、感じているだろうか。「創造的復興」、「事前復興」、「復興情報」、「災害弱者・要援護者・要配慮者」、「避難所」、「自助・共助・公助」、「コミュニティ」、「レジリエンス」、「防災・減災」、「教訓」、「伝承と伝達」、「目標と計画」、「コミュニティ・ビジネスとシビック・エコノミー」…。歴史の古いものがリバイバルされたり、時代を経て異なる意味を帯びていたりする場合もある。また、ことばを使う“論者”によって、語用が異なっていたり、誤用されていたりする場合もある。さらにいえば、すでに、“プラスチックワード”に成り果てていることばも含まれているかもしれない。

ことばが規定している社会と、社会が規定していることばの特性を、いかにして捕捉するか。探究のためのメソッドについても配視しながら、復興ワードマップ研究会の初年度の事業報告をおこないたい。ぜひ、会場からも、率直な“ことば”を賜れたらば、望外の喜びである。

○キーワード

ことば、ワードマップ、媒介、意味論・統語論・語用論、プラスチックワード

2. 登壇者

コーディネーター

- ・近藤誠司（関西大学社会安全学部）

パネリスト

- ・宮本 匠（兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科）
- ・石原凌河（龍谷大学政策学部）
- ・李 勇昕（京都大学防災研究所）
- ・立部知保里（兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科）
- ・大門大朗（大阪大学大学院）